

(様式1)

令和7年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 006	提案機関名 神奈川県農業経営士協会
要望問題名 細霧噴霧による施設冷房及び飽差管理技術の確立方法	
要望問題の内容【背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 近年の気象条件の変化は農産物の生産に大きな影響を与えている。特に夏の高温対策は喫緊の課題であり、県内農業において、施設園芸での高温対策は、野菜、花きを問わず切望されている。 細霧噴霧は冷房効果による高温対策だけでなく、加湿により飽差に影響を与えることが知られている。また、飽差は蒸散量に関係し、光合成速度に影響することから、細霧噴霧による飽差管理が生育に影響を与えるという知見が多数ある。 これらのことから、施設園芸の高温対策として、細霧噴霧による施設冷房及び飽差管理技術の確立による安定した良品生産技術の開発を要望する。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) IV-1 ICTを活用した温室内制御技術の開発及び経営モデルの構築 (1) トマト栽培における効率的環境制御法の開発 ア 環境制御技術が生育・収量に及ぼす影響調査 (ア) 温度、湿度及びCO ₂ 濃度を併せた制御が収量に及ぼす影響(平成28年度) II-2 県民ニーズに応える高品質・安定生産技術の開発 (1) 主要作物の高品質・安定生産技術の開発 イ イチゴ‘かなこまち’の安定生産技術・環境制御技術の開発 (オ) 環境制御が生育・収量に及ぼす影響評価(令和2年～令和4年度)			
対応の内容等 ご提案のとおり、細霧には気化冷却による降温効果と飽差維持による光合成の促進効果があり、施設トマトと施設イチゴで細霧の検討をしました。 施設トマトでは、細霧を用いた飽差制御の試験に取り組み、細霧の効果と使用方法をかながわトマトICT活用ガイド(https://www.pref.kanagawa.jp/documents/90221/kanagawatomato_ictkatsuyougaid.pdf)で紹介しています。また、施設イチゴでは、細霧による温室内気温の低下および飽差を維持する効果が生育および収量に及ぼす影響について試験成績書にまとめています。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			